

次世代エネルギー導入に向けたビジョン及び行動計画策定に関する基本的考え方

平成 24 年 4 月 26 日

薩摩川内市役所

1. 本市は、原子力発電所及び火力発電所を有し、「エネルギーのまち」として九州地域におけるエネルギー供給地としての重要な役割を担ってきた。これに関し、多くの企業が本市における発電所の建設及び運営に関わってきた。また、本市の資源を活用し事業を営む企業の中には、エネルギー分野において相当程度の技術及び知見を有する企業が少なからず存在している。
2. 昨年 3 月に発生した東日本大震災、及び、福島第一発電所事故を契機に、我が国エネルギー政策を巡る動向が不透明な状況となっている。このような状況の下、本市が持続的経済発展を達成するため、本市に所縁があり、我が国のエネルギー産業分野において相当程度の技術及び知見を有する企業等とも協力関係を構築し、従来の「エネルギーのまち」を発展させた、次世代エネルギーを活用したまちづくりを官民一体となって取り組んでいくこととする。
3. ビジョンの内容に関し、本市が持続的経済発展を遂げるため、長期的視点（例：2040年）に立って次世代エネルギーを活用したまちづくりを進めていくための方向性、及び、重点分野を示すこととする。
4. また、行動計画の内容に関し、ビジョンと同様、人口10万人程度の他の自治体の見本となるような取り組み、具体的には、多くの自治体が抱える、少子・高齢化による集落機能の低下、産業振興と雇用の確保等の課題の解決に資する取り組みを盛り込むこととする。また、薩摩川内市版スマートコミュニティの構築に向けた様々な取り組みも盛り込むこととする。
5. 但し、行動計画に関し、事業を実施する主体及び投入可能な資源は限りがあるため、実施に当っては本市にとっての重点分野を明確化し、協議会幹事会が時間軸等に着目し優先順位付けを行う。また、進捗状況を見つつ、協議会事務局である市役所が、定期的に見直しを行うこととする。

以上